

上川管内	鷹栖 市・ 町 ・村
<p>●実践の概要</p> <p>「放課後チャレンジ塾」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学合宿を、宿泊を伴わないプログラムで実施。 ・参加する子どものみならず、保護者向けの講話も実施。 ・調理や体験活動時に、地域住民が参画し関わる機会の創出。 <p>■対象（ターゲット）：参加した子ども、その保護者、地域住民（ボランティア）</p> <p>■主な連携・協働内容：調理や体験活動への地域住民参画、上川教育局による講話</p>	
<p>●実践に至るまでの経緯・準備したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においてこそ、子どもたちが生活習慣、規則正しい生活を考える場が必要だと感じている。主要事業である通学合宿において、宿泊を伴うリスクで中止にすることは容易だが、違うカタチで出来ないか内部で協議を進めた。 ・学校においても課外活動が制限されている中、子どもたちが様々な体験をできる機会を継続させていきたいと思っていた。 ・従来から実施してきた保護者向け講話において、上川教育局に講師を依頼し、「自己肯定感」をテーマに話をしていただいた。 	
<p>●実践で難しいと思ったこと・困っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の自己肯定感に対する理解度等をどのように把握するか。 ・感染対策を講じながら、どの程度まで通常事業に近づけていくか。 	
<p>●改善のアイデア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが共同生活する時間が短い中で、関係性を築くための事前研修やオリエンテーションの充実。 	
<p>●実践での行政職員の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体のコーディネート ・地域住民への参画依頼 ・子どもたちへの指導 	<p>●実践後の対象の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の自己肯定感に関する理解度は少なからず向上した。 ・職員自身も事業実施期間中の子どもとの関わり方を改めて考えられた。
<p>●実践から導き出された社会教育行政職員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネート ・地域住民の事業参画 ・子どもたちへの指導 	